

平成二十五年

いのち

生命の言葉

九月

秋来ぬと目にはさやかに見えねども
風の音にぞおどろかれぬる

藤原敏行

裏面もご覧ください。

九月
生命の言葉

秋が間違はなくやって来たとは目にはま
だはつきりとは見えないけれども、風の
音に自然にそれと気付かされて、はっと
することだ。

出典『古今和歌集』

藤原敏行 (ふじわらとしゆき)

生年不詳、九〇七年または九〇一年。平安時代初期
の歌人、書家。三十六歌仙の一人。詞書に「秋立つ日に
よめる」とある通り立秋の日に詠まれた歌。季節の
移り変わりを敏感に感じ取り、その感動が素直に表
現されている。自然とともに生きてきた古代の日本
人の姿が思い起こされる。

白露の候ご参拝の皆さまの願い事はきつと神さまに届きます

東京都神社庁

<http://www.tokyo-jinjacho.or.jp/>



遷宮で結ぶ人の輪 心の輪
第六十二回神宮式年遷宮